

刊夕日卅月一

# 常警日新聞

定価 一月五拾五圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓  
 廣告料 五圓以上 二行五圓 一行三圓 半行二圓  
 日曜祭日の翌日休刊  
 發行所 常警日新聞社 東京市本町三丁目三番地  
 電話 六三〇  
 印刷所 常警日新聞印刷株式会社 東京市本町三丁目三番地

## 經典の開く道

眞 繼 雲 山

佛は、一代の經藏、廣しといへども死の一事を説く「と仰せられた。死とは生死の問題であり、人生は生死以外にない死を究明し得ば人生は判然する。一切藏經は汗牛充棟も管ならぬがその究極は唯この一事を明かさんとしたものである。その解決されたものが曰く、悟りであり、救済であるがそれがなか／＼分らない。これを問へば言葉も絶えたり、思慮も及ばず、一字不説、離言絶慮といふやうな事になつてゐるのである。斯うも示したのが十三宗五十六派となり八萬四千の法門となつてゐるのである。

末代凡慮の私たちに取つて、經典はその唯一の依り所である。その經典の何れに優劣はないであらうが、最も高き富岳が雲表に聳ゆるやうに、最もその民衆の機根に合致したものが、その時代々々に愛誦されて来た。宗派々々によつて、その所依の經典に異同あるは「こゝを見よ。これこそ佛の正意であるぞ」と示されたる祖師の垂示の御親切の現はれである。左れば或る

一宗を立前とするとき、各經典の優劣は判せられやうが、民衆の方からいへば、已れの機根の上下によつて經典の價値は定まる。如何に治肺の高貴薬なればとて脚氣患者には詮ないことである。如何に高遠深秘の教説が秘められてゐやうとも凡愚にして難解不可解ならば、猫に小判といふの外ない。要は最も已れの機根に合した經典が、これに取つて最も尊いのである。

佛前にお經を捧げるといふ事を、机上に經典の意味を領解するといふ事とは、一は信仰であり、一は參學であつておのづから二様に考へねばならぬけれど、經意の領解が、やがて信仰を盛り上げる事となる。經典は概して難解難入なりといふもいへども、本朝に傳來せるは元々漢文なるが多く譯して和文となれるは更に平俗であり、讀書百遍によつて意はおのづから通ずる、そこに參學より信仰への通路がある。

所が一年三百六十五日、三年、五年といふ長い月日に、同じ心經や正信偈ばかりでは、失禮ながらアクビ

も出やう。そこに八萬四千の經典があつて、淺處より深遠への道が展開されてゐる。

その行き詰まりが梵文棒讀みの陀羅尼といふことになる。これならば、梵語を知らない限り百千萬遍讀んでも字句の領解のつく時はない。しかし領解は何處まで行つても人間の考へ方に外ならぬもので、人間の考へは佛の考へそのものではない。人間的な考へを離れたところにこそ佛の心はあらう。そこに經典の眞意、佛の堂奥がある。實に陀羅尼の諷誦にいたりて初めて甚深、善哉と呼ぶることである。

## 愛

平山 博武



私の讀んで居る本の上に一匹の蚊が落ちて来た。そして動かさずともしなでじつと紙にしがみついて居る。死んだのかと思ひて鉛筆の先で障つたらよるとすこしはかり動へたやせ衰へたこの蚊が私に可愛想になつてしまつた。恐しい吸血虫である事も忘れて、若し元氣になるならば自分の赤へ血を與へてやりた。

拜啓 寒冷の候貴益々御清榮の段奉慶賀候、陳者今回家事都合に依り突然鎌田町の自宅に移轉仕候間何卒今後も倍舊の御交誼願上度く實は早速拜趨御挨拶可申上處轉居早々の事として混雜中に付き乍略儀不取敢以書中御通知迄如斯御座候 勿々

昭和七年一月二十九日

荒川 銀治



磐城平町五丁目 電話九番九九番

磐城セメント會社特約店

良品廉賣に勝る商略なし

確實敏捷はの生命なり

## 齒科

平町鍛冶町吉田屋吳服店西隣り

口腔外科 齒槽膿漏科  
 治療科 補綴科 齒列矯正科

東京齒科醫學士 中村文一

中村齒科醫院

セメント 壁用材料  
 コールタール  
 ペンキ塗料  
 板 ガラス

磐城セメント株式會社 代理店 西村屋藥舖  
 平町二丁目電三

## 舊歲暮福引大賣出し

舊十二月廿二日より廿八日迄 現金御買上貳圓毎に福引券一枚呈上仕候贈るに便利受けて重寶

三井の商品券

- 景目品録
- 特等 丸帶又ハ小紋
  - 壹等 高貴織又ハ本場銘仙
  - 貳等 瓦斯反物又ハ帶地
  - 參等 敷布又ハメリヤス
  - 四等 御風手 呂富貴
  - 五等 御手 富貴

## 三井吳服店

平町 電話三八・二八四

## お茶の値下斷行

本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ

煎茶四十目袋入 十錢より五十錢まで

ほうじ茶四十目袋入 第二號十錢



迅速

# 佐藤氏の届出に 同志大いに立腹

## 豫選會の濟まざる前に 此行爲は何たる事ぞと

石城政友部會にては既記の如く明州一日午後一時から聚樂館に於て豫選會を開催する事となつて居るが木村金成、鈴木、佐藤の四氏を支持して夫々譲らず相當面倒な場面を展開するものと見られて居る、此渦中に在

つて佐藤庄太郎氏は既に昨日早くも立候補届出を了したが未だ豫選會の濟まざる前に當り斯かる行爲に出た事に同志を無視せるものであると爲し憤慨一方ならざる者が多い

## けふ平町の感謝式 參謀次長宛に電文

倉神社々頭に於ける元師閉院宮殿下の參謀總長御就任感謝式は各學校、青年團、消防組其他有力者を以て盛大に行はれたが式後代表伏見町長の名により左記の如き感謝電文を參謀次長眞崎基三郎氏宛に發電したと

『國家多事の秋、元師閉院宮殿下、御身を以て參謀總長の要職に御就任遊ばさる、誠に恐懼感激に堪へず謹みて感謝の誠意を奉表す。』

## 選舉事務打合

### 昨日平町で

既報、昨日午前十時より平第三小學校に行はれた石城郡各町村吏員の選舉事務打合會は縣永瀬社寺兵事務長平林縣屬出席左記の如き縣指示事項に就いて協議した

- △投票箱に關する件
- △投票用紙に關する件
- △投票立會人に關する件
- △投票の拒否及假投票に關する件
- △點字投票の取扱に關する件
- △雜件

### 神谷共同販米

郡神谷村農會の産米共同販賣は廿九日午後一時より同會倉庫に行はれ四等八俵、五等七十五俵、等外二百一俵合計二百九十四俵を入

## 新刊紹介

▼佛教新聞 眞繼雲山氏を社長とする旬刊「日本佛教新聞」は今回法縁弘通のため東京神田今小路日本佛教新聞社にてハガキにて申込次第何人にも近刊一冊を無代進呈すると

▼模範口演童話選集 日本童話協會創立十週年記念とし諸大家の口演童話を集めたものにて四六版四百數十頁の美本、本社川崎小島氏の童話「腹の中の虫」も掲げられてある(定價二圓、東京本郷彌生町文化書房發行)

▲常磐の嶺 茨城縣松原

警察署内獵友會の發行にて創刊號である丈に内容豊富見るべき記事多く地方には稀れな大雜誌である(非賣品茨城縣多賀郡松原署内獵友會支部發行)

## 平町人事

### 回出生

△月見町二三 根本清一氏  
△新川町二七 小野潔氏長女ミエ  
△鎌田町四六 當時仙臺市小田原町五二、入江信三郎氏長男 秀信

### 回婚

△東京府下南葛飾郡小松川町四丁目八一 安澤清氏(三五)平町五丁目三 馬目(三五)

△仲間町四八 佐藤マサ(三西)

印刷物の御用命は總て  
常磐毎日印刷株式會社  
電話三六〇番

井の三  
手切の品  
番八三  
電三二  
平三

尺が長くても手ざわりよく洗濯しても色さめず何回編直しても大丈夫此糸こそ國産日本一

モサーヤ糸店

## 無代進呈

誰れでも何時でも無資本で開業が出来て即日より現金収入ある

## 通信販賣術講義録

要領收一冊無代進呈

同書には無償、無利子、對信用にて月賦償却法による資金貸出の制度を提供す但し入學金共講義録月謝合計參圓を要す、ハガキにて此新聞名記入御申込次第右要領收一冊無代進呈す。

東京市神田區今小路二の二

中込所東京通信販賣研究會本部

## 遠近 自宅筆生募集

何人にも書ける副業としての筆生を募集す前金保證金又は材料費等絕對不要、郵券九錢封入御申込み次第即日より就業の材料内容一切送る。

東京市神田區通神保町三星鳳社出版部

## 無代進呈 佛教書籍佛畫佛像佛具目錄

ガキ御申込み次第無代進呈

東京市神田區(番地不用) 日本佛教新聞社

## サルの年

### 第一時計より

常に商品の確實と流行の粹は時代のスタートを切つて顧客本位を生命として各位様の御来店をお待ちして居ります

### 御注文及び修理は

電話一九五番へ

鐵道省御用

金光堂

各時計類 貴金屬眼鏡 蓄音機各種 及レコーダ 懷中電燈

平五(釜屋向) 電話一九五番

## 今年是不景氣

# 戀しい娘の寫眞を

## 懐中して探し歩く

### 強慾な己れが魔窟に賣つて

#### 寄る年波にこゝろ淋しく

今晩一時頃平驛待合室にケツト一枚にくるまつて寝て居る老婆を平署員が発見取調べると東京市外千駄ヶ谷無職平吹ツネ(四〇)といひ

#### 同女は

懐中より娘の寫眞を出し「娘をさがしに」はるゝ来たのです」と暗涙にむせんで居た、語る處に依れば同女の一人娘すみ子(三)は不義の子で十七の時早くも男の味を知つた程親娘とも揃つて

#### 其の道

強か者であつたが、當時妾をして居た母ツネは御多分に洩れず金使ひの荒い女で一人の旦那からのさまつた仕送りでは費澤なくらしも出来ないの己れ的美貌を種に他の鼻下長 連からも金を

### 縁談にケチを付たと

#### 親子が大立腹で暴行

石城郡豊間町字洞小船市次郎(六)は最近長男秀二に嫁を迎えたが婚姻前に嫁の實家から同村字八幡鈴木兼吉(六)に市次郎方の家庭に就いて問合せあつた際散々悪く云つた事が判り恨みに思つて居た處へ去る廿五日突然兼吉が訪ねて来たので市

綾つて居たが強慾な同女は夫れでも未だ足りず十七になつたばかりの娘を龜戸の魔窟に多額の前借金と引きかへに身を落させ己れは費澤なくらしをして居たが寄る年波に美貌衰へ梅干婆となるにつけ寄りつく男もなくなり、くらしに困り果て

#### 娘戀しさの餘り魔窟

へと轉々と移り歩く娘の跡を追ふて探し求めて居たが平町南町の飲食店に酌婦をして居るといふことを風の便りに聞きつけはるゝたづねて来たもので

#### 一夜の宿を同處にて

とつたものと判明嚴重説諭の上木賃宿に案内せしめた

#### ラヂオ聴取料

愈よ値下げ  
一ヶ月七十五銭に  
ラヂオの聴取料は現在の月一圓が四月から七十五銭に引下げることにきまつた、最初七十銭の豫定であつたのが、聴取者へ課税する代償として放送協會が政府に奉納金をすることになつたので結局かうきまつたのである、七十五銭となつてよろこんだのは放送局の料金係である、といふのは料金徴取の方法は直接集金のお膝元を除いて三ヶ月分金三圓づゝの集金郵便でやつてゐた、集金郵便の取扱最低限が三圓であり、年四回で手數も省けるのでさうしてゐたのである、ところが聴取料が月七十銭となると、集金郵便によることにすれば四月分では三圓の制限に達せず五ヶ月分三圓五十銭づゝとなる、さうすると一

#### 平町生産の果實

梨子と柿の賣上高  
の生産高は梨二百五十本、生産高二千貫で此の賣上代四百圓、生柿は二百八十本二千四百四十貫の生産で賣上三百六十六錢である

#### 職を尋ねて歩く内

出來心から盗む  
石城郡山田村字下山田生れ住所不定佐川米次郎(三)は廿日午後三時頃就職を尋ねて歩き廻る内東白川郡宮本村字松川、岡部千代方水車小屋の中に蒞着て貯蔵してあるを見て悪心を抱き小屋に忍入り六貫目の蒞着を窃取し是れを同村の仲買人會田某に賣却何に喰はぬ顔をして翌日石川町に入込んだのを其筋に取押へられ本日平署に同人の身元調査方を依頼して来た

#### 酌婦の身代金横領

石城郡内郷村字宮鈴木嘉太郎(三)は本月十日好問村字中好問佐藤己代治の長女マツ(二)を酌婦として世話するからと同人を内郷村大字高坂字御殿山飯食店山口ツネ方に周旋し、手金として五十圓を受取り其儘逃走したので本日平署へ親元から同人の取押を願ひ出た

**明日のラジオ**  
第一日  
今夜も明日も北西の風晴れたり曇つたり

**今晚の部**  
後六、〇〇(子供の時間) 獨唱と齊唱 米澤市北部小學校兒童  
後七、三〇 講演「滿洲の治安と警備」  
後八、〇〇 謡曲「放下僧」  
喜多六平太喜多實外六名  
後八、四〇 ラヂオドラマ

**明日の部**  
前九、一〇 餐養料理「鹽鯛のフライ」餐養研究所  
前九、三〇(子供の時間) 「軍歌と軍樂」陸軍々樂隊

**盗伐して**  
告訴さる  
石城郡磐崎村字藤原高木作馬(三)は廿五日同村大平眞次所有の上湯長谷地内山林で松材三十餘本を無断で伐採し是れを湯本町高田某に八十圓餘に賣拂つた事發覺本日平署へ告訴された

**平職業紹介所報告**  
求人部  
△女中 廿才以下 尋卒 給料面談(田町某種球店)  
△出前持 廿才以下 尋卒 給料面談(五丁目某料理店)  
△看護 夫見習 廿才前後 高卒 給料面談(小名濱某醫師)  
△豆腐製造見習 四十才以下 尋卒 五圓位(草野村某豆腐店)  
▲求職の部  
△雑夫 四十才 高一修 給料面談(仙臺市某)  
△事務員 廿八才 岩倉鐵道學校卒 給料面談(材木町某)  
△女事務員 十九才 高女

**美味! 芳醇!**  
**宗正らひた**  
山崎合名會社 電話一〇番  
木村科醫院 平町五丁目橋際 電話三〇九



【載轉禁】

渡邊默禪作 布施平八郎畫

お通夜 (6) 清作は手探りに壁上のス イッチをあさつた。やがて ぼつと照いた電球の光りに 室の中は夜が明けたやうに なつた。眩しさうに瞬きし ながら清作の姿を見直した 兄妹はあまりの唐突な變装 振りにひたとあざれて目を 睜つた。

『エ、エ、如何です。い 様子でせう。ちやつとこ う、幸四郎の河内山宗俊、 イヤ然うはならねえ此方は 公儀の御直參、大名風情が 氣儘の所置を受ける身分ぢ やねえと大きく出るところ で、へ、是なら請合、浮 氣な後家さんなら引つ懸り ますせ、あ、南無阿彌陀佛 』



つるりと髪を刺り落して 黒染の着衣まで纏つた青道 心は長袖をいなせに捲りあ げてコワイロを使つたかと 思ふと、直その下から珠數 を揉んで鹽辛聲の念佛を唱 へた。 『一体どうしたといふのだ お前氣でも違えあしない か』 源之助は苦笑ひして言つ た。 『いや、氣は確でげすから 御安心なさいや。強に如

場へ来てから負けでせう。 負けて見れば文句は言へ ねえ。男らしく坊主になつ て託をしなければなりませ んから、今日の夕景から普 提所の靈巖寺へ出かけてい つて住持に事情を話して何 が何でも弟子にしてくれつ て強硬談判をして、とうと

う御覽の通りの姿になつち まあました。 若旦那お嬢さん。誠に濟 みませんかね、私ア今日限 り御宅の方はお暇をいたゞ きますよ。是から淨念とい ふ名前で菩提所に御埋りに なる舊の旦那、平兵衛さま のお墓守、四十九日の間堀 立小屋のなかに籠つて朝夕 の御回向をしますから、ど うぞね、お二人さんとも、 けちな坊主だがよく主人の 恩を忘れずに勤めてくれる と、その志を買つてやつて おくんないや、私あ今 までのうちに、さんざ面白

清作はこう言つて、めそ くと泣き出した。 『それが兄妹にとつて強い 感激の衝動であつた。 二人とも堪らなくなつて 飛着くやうに左右からその 膝にすがつた。 この際、大廣間に飾つた 柩の前には水髪に白無垢の 喪服をつけた未亡人の郁子 とフロックに喪章の川島と が居列んで、さも打情れた 顔をしながらお通夜に來た 人々に挨拶をつづけてゐた 『木村、何だつてそんな逸 まつたことをしてくれたん だ。喧嘩に負けながら男ら しく約束を果したとお前は 言ふけれど、また負けた譯 でも何でもないぢやないか』

『然うよ。歌ちゃんに説人 に立つて貰ふと思つて呼ん だのが、如何してか來て呉 れなかつたもんだから、時 間が遅くなつて一時延びた だけのことなのよ。此方が 負けになつた譯ぢやない わ』

科病柳花・科兒小・科内 院醫沼藤 應需院入 町屋紺町平 番七〇五話電

舊 二十一日ヨリ 二十八日マデ 二年 奉 任 二割大引賣出

星野時計店 掛時計及目覺時計は 元價販賣に付割引無

冬通學服 當店特製の黒小倉通 學服を豊富に取揃へ て御座います。 長ツボン付 小學生用……・85錢ヨリ 同(特製品)……1・90錢ヨリ 中學生用……2・80錢ヨリ 平 三 電話203 あかや洋服店

當方地に於ける タクシー界のナンバーワン 最高級車アリモス號増車致しました 何卒御用命の程御願ひ致します 電話三九五番 セリザワタクシー

節分豆蒔式次第 二月四日 縣社子歛倉 神社々頭に執行仕候 午後一時修抜 同一時半家内安全祈禱 同二時豆蒔執行 普通會費金二十錢 (御加入の方には、家内安全祈 禱御神札、福豆、御神酒呈上) 特別會費(年)金五圓 (御祈禱札、福升、福豆、 (本膳引物)付仕度料も含む) 主催 石城福和内會

看護婦急派 の求めに應 じます 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番 耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平町南町 電話一七〇〇